

【目的】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

球技：ゴール型（サッカー）

1 実施の概要

- (1) 実施環境：体育館（Wi-Fi環境有り）
- (2) 使用機器：各チーム2台ずつのタブレット（ミニゲーム撮影用×1、ミーティング撮影用×1）
- (3) 活用ソフト：カメラ機能（動画撮影）
- (4) 対象：その次の年次以降（3年生女子）

2 活用の実際 (ICT環境を生かした指導の工夫)

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

【学習の流れ】

【導入】

- ・前時の復習
- ・本時の目標
- ・本時の説明



【展開】

- ・条件付きパス練習
- ・ミニゲーム
(動画撮影)
- ・ミーティング
(動画分析)



【まとめ】

- ・本時の振り返り
- ・次時の説明

【活用場面】 場面：展開

- ・ミニゲーム（4対3攻防）の様子をコートの上から撮影し、その動画を用いてミーティングを実施した。ゲームの中で変化していく「空間」に着目させ、「どこに」「誰が」「次の動き」などをポイントとして示し分析させた。
- ・コート全体が映るように撮影させた。

【活用場面写真等】



(2) 目標に準拠した観点別学習評価の取組

【観点別学習状況評価】

思考・判断・表現

【評価規準】

チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。

【活用方法】

- ・チームミーティングにおいて撮影した動画を分析するためチームごとに2台のタブレットを活用した。
- ・ミーティングの様子をチーム全員の顔と声が映るようにインカメラで撮影し、後日撮影した映像を評価に活用した。

【活用場面写真等】



3 参加した生徒の感想等

- ・自分たちの動きが動画によって分かったので、次のゲームの時に空間を見つけようとする意識が前よりも高まった。
- ・自分の動きをコートの上から撮影した動画で見ることで、コート全体と自分たちのチームの位置や動きを一目で見ることができ、空いている空間や良い動きの人を見つけることができた。
- ・動画を見てみると、思ったよりも自分たちがボールに集まっているなと思った。動画を見たあとからチームみんなが空間を意識することができていたおかげでパスが通りやすくなり、シュートにつなぐことができるようになって良かった。
- ・動画を撮ると、自分がどこに動くべきかが分かるので良いと思った。また、空いているスペースがはっきり見えるのでグループ全体の改善点が見つかって良かった。
- ・動画を見ることで自分たちが塊になっていたことやボールを捕りに行く人がいなかったことに気付いて、空間を上手く使うように意識するようになった。

4 成果と課題

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

【成果】

チームミーティングにおいて「空間」に着目して分析させたことで、主体的・対話的で深い学びにつながった。分析の結果、次時の授業で「どこに」空間があり、「誰が」「どう動く」と良い展開になるのかをチーム全員で理解することができ、得点チャンスを多く作ることができるようになった。

【課題】

「空間」を意識することでチームミーティング中は理解できたが、実際のゲームになると予期せぬ実態が多いため、まだまだゲームにつなげることが難しかった。静止状態だけでなく、ゲーム中の指示などを含む動作中の対話的な学習ができるよう工夫していきたい。

また作戦ボードを用いて、各チームや個人の動きをより具体的に理解できるよう図っていきたい。

(2) 目標に準拠した観点別学習評価の取組

【成果】

チームミーティングの様子を撮影することで、評価時に生徒同士の対話をじっくりと聞くことができた。声だけでなく一人一人の表情も映っているため、「誰がどの発言をしたのか」や「他者の意見に共感しているのか」まで見取ることができ評価につなげることができた。

【課題】

1度のチームミーティングを撮影しただけでは確かな評価ができないため、チームミーティング撮影の機会を数回設ける必要がある。（撮影したゲーム内容に応じてチームミーティングの内容も変わるため）

撮影の角度や距離を具体的に提示して、評価しやすい画角を生徒が設定できるようにすると良い。